

第1回甲府駅南口周辺地域修景計画検討委員会発言要旨

平成22年7月16日 山梨県庁北別館501会議室

出席委員13名 欠席委員4名

議事1

「事業概要、策定スケジュールの説明について」

資料1 「事業の概要」

資料2 「修景計画策定のプロセス」 により説明。

<質問意見 なし>

議事2

「上位計画、関連計画の概略説明」について

資料3 「上位計画・関連計画一覧」 により説明

<A委員>

- ・景観形成を魅力あるまちづくりにつなげていくことが重要。
- ・歴史を景観検討に反映させる場合、どの時代背景を対象とするのか、十分議論が必要。
- ・甲府は、戦国時代から明治時代のものが多く残っており、景観形成に反映して自慢できるまちなみにしたい。

<B委員>

- ・住民が快適に暮らせる視点で景観を考えたい。

議事3

「住民意見・アイデアの募集について」

資料4 「住民意見・アイデアの募集について(案)」 により説明

<C委員>

- ・計画検討エリアとアンケートの質問内容を整合させた方がいい。

<A委員>

- ・アンケートを行う場合、近隣住民と甲府駅を利用する市外の人で訊き方が違ってくる。

<D委員>

- ・観光立県を目指していることから、観光という視点で検討することが必要。

< E 委員 >

- ・幅広く検討していくと、逆に計画が何を指すのかわかりにくくなる恐れがある。

議事 4

「次回の開催日程について」

次回委員会を、9月29日（水）とさせていただきたいと事務局が提案し、特に意見なく決定された。

< 議事終了後 >

「都市玄関口の景観形成を考える」というテーマで、北村委員長から景観の基礎的な説明から事例紹介に渡るお話をしていただいた。

< まち歩き終了後 > 中井委員長代理より総括をしていただいた。

< 中井委員長代理 >

- ・地方都市は城下町だったところが多く、まちを作り変えてしまったところが多いが、古い城下町が残っているところは、今風には使いにくい。
- ・甲府は、戦災復興区画整理でまちをつくり変えた反面、かなり大事なものが失われている。特にまち割（道路と敷地の関係性）が失われている。
- ・景観は、地元の歴史や場所の履歴を掘り起こすことが必要である。
- ・駅前広場や道路（平和通り）を見ると空間としてはゆとりがあるが、現状自動車のために使われている空間を歩行者のために振り向ければ景観的に大分変わる。
- ・駅前広場は交通広場であり、今までは自動車中心に考えていれば良かったが、これからは人をメインにしていかなければ、少子高齢化に対応出来ない。

< 以上 >